

◆ タイミングを生かして
お役に立ちたい

みやぎ生協
(石巻) 仲間づくりチーフ
田松 忠明氏

まだ大勢いる“困っている方々”に早く手を差し伸べたいという気持ち、また同じサンネットの仲間であるコープふくしまさんに力添えしたいという気持ちで参りました。

石巻では、仮設住宅を12周ぐらいました。行くたびに生協に加入してくださる方がいるんです。被災された方々のくらしはそのときで環境が変わる。一度断られたとしても、それはまったく必要がないという意味ではないと思います。

だから、こまめに御用聞きのようにお邪魔し続けて、環境が変わった時などお役に立てるタイミングを逃さないという姿勢が大事なのです。

これからも仮設住宅から復興住宅などへの移行など環境は変わります。スピード感を持って活動していきたいですね。

「福島のお役立ち」に東北の生協が集結

2月5日から10日まで、コープ東北サンネット事業連合に加盟するコープあおもり・いわて生協・コープあきた・秋田県北生協・生協共立社・みやぎ生協は、コープふくしまに計22人の職員を送り、仲間づくり活動の支援を行ないました。

福島県では、原発事故の影響で現在も断続的に人の移動が続いています。コープふくしまでは、発災後から県内の避難先で新たな生活を始めた方々に生協としてお役に立てるよう、お声がけを行ってきました。しかし、夏休みを機に小さな子どもがいる家族などの県外移動が加速、宅配の利用者は夏休み期間だけで約1,000人も減ってしまいました。

今回のサンネット加盟生協による支援は、そうした状況のコープふくしまを支え、福島の方に少しでも多くお役立ちをしようという目的で行なわれ、結果として計520人ももの加入者を増やすことができました。(左欄関連記事掲載)



毎日、仲間づくり担当で成果を報告し合い、次の日の活動につなげる。



支援1日目には、コープふくしま専務理事の野中 俊吉氏による放射能の学習会も行なわれた。

商品の供給を増やし、支援をしたい



4種類のほっけを試食。



よりよい商品づくりのため、真剣に意見を出し合う。

1月26日、いわて生協・コープ一関COLZAにて、「アイコープほっけみりん漬けつくってみる会(以下、つくってみる会)」が開催されました。いわて生協のアイコープ商品「ほっけのみりん漬け」の佐勇水産(宮城県石巻市)の生産工場は、東日本大震災の津波により生産不能に陥りましたが、10月上旬に被害の少なかった工場の改修を経て営業を再開しました。いわて生協では、「人気のある商品をさらに良くし、商品の供給を増やしていくことが最大の支援」だとして「つくってみる会」を開催。組合員理事、組合員、いわて生協職員の計15人が、旨みをプラスするために酵母エキスの配合を変えた数種類の試作品を試食し、意見を出し合いました。

佐勇水産はもう1つの工場の年内再開も目指しています。東日本大震災に負けず、組合員・生産者・生協が共に手を取り、復興への歩みを進めています。

【一言メッセージ】

- ・ 福島から他県へ避難している人と、福島にいる人の思いの格差をうめたいです。(福島・Uさん)
- ・ この瞬間も、ボランティアをしている人がいる。私もやらなければと思わされます。(岩手・Kさん)